牛群検定成績活用シート の使用方法

1. 以下に続く牛群検定成績活用シートNo.1、No.2を
「A3」サイズにて印刷して下さい。

2. 色づけしてある「切り取り」の部分をカッターナイフなどで
切り抜いて下さい。

3. ラミネート加工などをすれば、汚すことなく何度でも
使うことができます。

4. 各シートと成績表の
組み合わせは
右図にとおりとなります。

牛群検定成績活用シート		
シートNo.	タイトル	用意する検定成績表
Ｎｏ．１	乳量・乳成分から 牛群を把握しよう	検定成績表（牛群成績）
Ｎｏ．２	繁殖成績から 牛群を把握しよう	検定成績表（牛群成績）

乳用牛群検定成績表
チェックシート

乳量・乳成分から牛群を把握しよう

県南乳用牛群改良組合
平成２１年８月作成
監修　宮城県畜産試験場
仙台農業改良普及センター
大河原農業改良普及センター

搾乳日数

１６０日～１７０日で安定していることが大切
長すぎる→繁殖悪い
短かすぎる→分娩の偏り

標準乳量

安定している＝飼養管理が安定
産次や季節などの影響を除いた数値
２産、４～６月分娩、搾乳日数１２０日で換算した値

P／F 比

０．８～０．９が目安
０．９以上：濃厚飼料過多、粗飼料不足、アシドーシス傾向
０．８以下：エネルギー不足、ケトーシス傾向

MUN

バルク乳・群平均10～14mg／dl
個体乳　　9～16mg／dl

乳タンパク質率　%

MUN mg／dl	３．２未満	３．２～３．５	３．５以上
14以上	分解性タンパク質過多 糖、でんぷん不足	分解性タンパク質過多	分解性タンパク質過多 糖、でんぷん過多
10～14	糖、でんぷん不足	適正バランス	糖、でんぷん過多
10未満	分解性タンパク質不足 糖、でんぷん不足	分解性タンパク質不足	分解性タンパク質不足 糖、でんぷん過多

※分解性タンパク質：ルーメンで分解されるタンパク質
サイレージや大豆粕に多い

85%程度　95～105%　3．6以上　3．3以上　8．8～9．0　２００（２０万）以下

移動13ケ月成績	牛群構成							検定乳量／出荷乳量	検定日成績／搾乳牛１頭平均							体細胞情報						
					分娩												搾乳牛頭数比率					
検定年月日	経産牛	搾乳牛	搾乳牛率	搾乳日数	頭数	初産	雌		標準乳量	乳量	乳脂率	蛋白質率	無脂固形分率	MUN	P／F比	濃厚飼料給与量	体細胞数平均	70以下	71～282	283以上	千／ml 新規	千／ml 頭数	乳量損出率	損失乳代（自当たり）

先月の成績→
今月の成績→
（検定日まで）

切り取り

経産牛１頭当たり年間成績					
月	乳量	乳脂率	蛋白質率	無脂固形分率	P/F比

切り取り

過去１年間の牛群の成績
我が家の成績は１頭あたり○○kgと表現するのは一般的にこの値

乳　量：泌乳曲線はきれいにピークを示すか
初産牛のピークは２産以上牛の約75%（２産以上牛 40kg→初産30kg）

乳脂率：泌乳初期の高乳脂率（４．５％以上）はエネルギー不足による体脂肪導員を表し、肝臓に負担をかけ、ケトーシスの危険性もある

乳蛋白質率：栄養充足の指標でもあり、80～90日には３．０％以上に回復させることが望ましい

１産						２産以上					
21日以下	22日～	50日～	100日～	200日～	300日以上	21日以下	22日～	50日～	100日～	200日～	300日以上

切り取り

泌乳初期（49日以下）　泌乳最盛期（50～99日）　泌乳初期（49日以下）　泌乳最盛期（50～99日）

切り取り

実乳量は
産次を重ねるほど高く

補正乳量（能力）は
初産ほど高く

乳用牛群検定成績表
チェックシート

繁殖成績から牛群を把握しよう

県南乳用牛群改良組合
平成２１年８月作成
監修　宮城県畜産試験場
仙台農業改良普及センター
大河原農業改良普及センター

繁殖成績が思わしくないときは、乾乳期の管理を見直しましょう。

乾乳から分娩時の管理がスムーズに行くと
疾病や事故がなく、**繁殖が良好で**、**乳量も順調**となり良いことがたくさんあります。

【乾乳期の飼養管理ポイント】

飼養環境		清潔で乾燥した環境　暑熱対策　換気 十分な運動が可能な施設 餌水が容易に摂取できる
飼養管理	乾乳前期	低栄養だが嗜好性の良い粗飼料を飽食 タンカルを５０～１００ｇ給与しカルシウムを蓄積
	乾乳後期	**嗜好性が良く、カリの低い粗飼料を飽食** 乾乳用配合４kg給与 ビタミン（特にビタミンＥ）、ミネラル（特にマグネシウム）を必要量給与　カルシウムを多く含む飼料は注意が必要（搾乳用配合、ルーサン、ビートパルプなど）

ＪＭＲ
「２０」が目標

繁殖成績の指標の一つ
初産牛　　８０日間
２産以上牛　６０日間
を意図的に授精を行わない待機期間として、その期間経過後の日数の平均を示す
１日伸びると 1,500 円～2,000 円の損失と言われる

平均空胎日数
平均空胎日数＋２８０日＝９ケ月後の平均分娩間隔

将来の繁殖成績を示す数値
１００～１２０日を目標に授精

初回授精日数
繁殖成績向上には特に重要
平均で８０日以内にすることが望ましい

目標２．０回

乾乳日数
平均６０日程度がベスト
４０～６９日の割合が多く、極端に長かったり短い牛がないことが望ましい
乾乳期間が長い牛は太りすぎや逆に乾乳中にやせないように注意

授精状況									管理状況（除籍牛を除く）										
授精		授精回数		初回授精		未経産授精間	経産授精始	経産JMR	妊娠	空胎日数					乾乳日数				
授精	肉牛高配率	平均	3回以上	受胎率	開始					平均	59以下	60～	85～	115～	145以上	平均	39以下	40～69	70以下	90以上

前月→
今月→
本年→
前年→
切り取り

切り取り

分娩間隔
３８０日～４００日
（１００日～１２０日授精）

・２産が長い場合
初産の食い負け、栄養不足、育成時にフレーム不足で授精していないかを見直し

予定分娩間隔
予定分娩間隔が現在の分娩間隔より短縮されている場合、繁殖管理が良い方向に向かっている

発情は確認できたか

初産牛は８０日、経産牛は６０日以降速やかに授精

初回授精が遅い場合は、原因追求・管理の見直しを

今後の分娩予定頭数を確認し、作業計画を立てましょう

切り取り